

個別支援してほしいと思いましたが」といった意見もありました。

また、二学年では、「自分にとって制作時間は十分あったと感じた」という項目において、「そう思わない」「あまりそう思わない」と答えた生徒の割合が全体の三割を超えるという結果が出ました。このような結果となった原因として、二学年では、抽象的な内容が多くなり、主題を考える必要性が出てきたことが挙げられると考えられます。そのために、作品の構想に多くの時間を割かれる生徒が出てきており、実際に作品を作っていく作業時間が足りなくなつたものと考えられます。

このような結果を受け、学習カードなどを使って、生徒の制作状況をできる限り把握し、制作進度が遅れ気味の生徒に対して、先を見ながらスモールステップで個別支援をしていくこと、また、模造紙や板書などを積極的に活用し、手順や工程をまとめたり、参考作品の数を増やしたりしながら、視覚的な情報を充実させて生徒の制作を支援していきたいと考えています。生徒によって制作の進度に差が出てくることは完全に解消できるものではないと考えますが、個々に応じた支援を充実させながら、このような課題の

緩和に尽力していきたいです。

(他教科は次号掲載いたします)

安全係から

平成二七年度も終わりを迎えようとしている時期となりました。一年間のまとめの時期であり、新しいスタートを迎える時期でもあります。年度の切り替わりの三月～四月にかけて、陽気が温かくなると同時に、気持ちもフワフワとしてしまうものです。そして、交通事故も起きやすい時期でもあります。改めて「交通安全」のルールについて確認し、安心・安全に、新年度を迎えられるようにしましょう。

〈歩行者〉の注意点

① 夜間での外出

「外出は 明るい笑顔と 反射材」※
夜間での外出はなるべく避けましょう。どうしても外出の必要のある時は、「ライト」や「夜光反射材」を身につけること。

たすき、アームバンド、自転車の反射板を取り付けましょう。

② 交差点・横断歩道

「横断はいくつになっても 右左」※
道路を横断する時は、左右の確認を「必ず」行って、車が「完全に」止まっているから、歩を進める。歩行者用の信号機が「青」になつても、周りの車の様子を一度確認してから。横断歩道のあるところで横断する。

〈自転車運転〉の注意

① 「安全に」運転できる自転車を使用
おう。

合言葉は「ぶ・た・は・しゃ・べる」
ぶ・・・ブレーキ
た・・・タイヤ
は・・・反射材
しゃ・・・車体（ハンドル・サドル・ライト）
べる・・・ベル
必ず「ヘルメット」を着用すること。
（未着用の場合は、死亡リスクが「三倍」になります。）

② 自転車も「車」。交通ルールを必ず守る。

「子どもでも 自転車のつたら 社会人」※
自転車も車と同じ扱いとなるため、左側通行を守りましょう。また、携帯、スマホを使いながらの運転や、傘を差

しながらの運転音楽を聴きながらの運転、並行・蛇行運転 二人乗り これらはすべて行わないようにしましょう。また、「一時停止」、「信号」や「標識」の指示に従って運転するようにしましょう。

保護者の皆様へ

県内、郡内で小中学生が被害に遭う交通事故が増加しています。学校でも指導をしておりますが、ご家庭でもご指導をよろしくお願いします。

最後に・・・

「大丈夫だろう」「来ないだろう」という安易な考えではなく、車が「来るかも」という考え方で、危険のアンテナを張っておきましょう。「事故や災害は、いつ、どこで起こるかわかりません。」

※（交通安全標語（全日本交通安全協会・毎日新聞社主催交通安全年間スローガン上位入賞作品から）

富士見町立富士見中学校

諏訪郡富士見町富士見四六五四番地

TEL 0286(02)2009 FAX 0286(02)7409

担当 名 取 克 裕